

平成28年度第3回清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体 会議録(議事要旨)

- 1 開催日時 平成28年9月27日(火) 午後1時30分から午後3時30分
- 2 場 所 中清戸地域市民センター 多目的ホール
- 3 出席者

(1) 委員

地縁団体 阿久津 州美男

田中 三和子

近藤 礼子

地域福祉団体 星野 孝彦

小野 秀

高田 徳次郎

柳原 義介

内田 豊

名古屋 英幸

菅原 のぞみ

羽田 ゆかり

生活支援サービス事業関係者 村田 秀子

生活支援コーディネーター 鍵和田 卓也

(2) 職員

高齢福祉担当部長 小山 利臣

企画部企画課長 南澤 志公

企画部企画課市民協働係長 小田島 弘幸

市民生活部産業振興課長 木村 広昇

健康福祉部障害福祉課長 新井 勘資

健康福祉部地域包括ケア推進課長 関口 美智子

健康福祉部地域包括ケア推進課 吉村 晶子

朝妻 美穂子

湯瀬 大

(3) 傍聴者 4名

4 次第

(1) 開会

(2) 挨拶 地域包括ケア推進課長より

(3) 配布資料の確認

資料1 平成28年度第2回清瀬市生活支援・介護予防サービス等協議体会議録(議事要旨)

資料2 フォーラム みんなで創ろう ささえあえる街 きよせ アンケート集計

当日資料1 フォーラム後の取り組みについて 大枠(案)

当日資料2 協議体委員が所属する団体へのアンケート調査の実施について(案)

当日資料3 協議体の役割について

当日資料4 第二層協議体について

(4) 会議録の確認

事務局より平成28年第2回清瀬市生活支援・介護予防サービス提供主体等協議体の会議録(議事要旨)に関してホームページに掲載してよろしいか、確認依頼を行う。異議が無いようなので掲載することをご了承頂く。

(5) 議題

ア フォーラム みんなで創ろう ささえあえる街 きよせ アンケート結果について

事務局よりアンケート集計結果について説明を行う。フォーラムには120名定員のところ、参加者150名参加いただくなど大盛況であった。グループワークには96名の方に参加いただいた。参加者の主な特徴としては60代~70代の方が73%。女性の方が64%であった。基調説明・基調講演・グループワークについて88%以上の方が「理解できた」ということで、フォーラムの内容は概ね良好であった。その他の項目では、多数の方が「この活動に参加したい」との意見をいただけた他、「支え合うきよせ委員会について初めて知った」ということから今回のフォーラムの目的はある程度達成できたのではないかとと思われる。

イ フォーラム後の取り組みについて

フォーラムに参加いただいた参加者に対し、勉強会の開催を検討中。内容に関して生活支援コーディネーターの鍵和田氏より提案いただく。

委員

名称に関して、ただ勉強会とするのではなく、具体的な内容を踏まえ検討をした方がいいのではないかと。また、参加者の対象者を再度検討した方がいいのではないかと。

生活支援コーディネーター

今回の勉強会はフォーラムの続きということもあり、フォーラムに来ていただいた方を対象に考えていきたいと思っている。ただ、アンケートを回答いただいた方に現在、電話をしているが、人数が集まらないことも考えられるため、他の方も勉強会につなぐことも今後検討していきたい。

委員長

名称に関しては他にご意見あればお願いしたい。無いようならば、生活支援コーディネーターを中心に別途名称に関して検討することよろしいか。

委員

何のための勉強会なのか等、目的が一番大切なのではないかと思う。有償ボランティア、居場所をテーマに勉強会を開催とのことだが、アンケート結果を見ても有償ボランティアが少ないので、無償ボランティアをテーマに検討した方がいいのではないか。

委員

無償のボランティアのほうがとっつきやすいと思う。参加者も気軽に参加できるのではないかと思う。

委員

二つにテーマを絞ってしまうのはもったいない気がする。参加者の方に今後、有償ボランティアを勉強会の重点項目として捉えられてしまうか若干不安である。

委員

日程・テーマともに応募者に寄り添って勉強会を企画した方がいいのではないか。

委員

電話する中で今回の勉強会の日程では参加できないが、次回は参加したいという方もいたのか。フォーラムの参加者の中にはどのように関わっていいか、わからない為活動はしていないが、手伝いたいという方が多くいたように感じた。支え合いの仕組みづくりは地道にそのような方を育てていくことが大切ではないか。

生活支援コーディネーター

今回の勉強会には参加できないが、次回は参加されたい方も多数いた。

委員

ただ、今回すでに出席できると回答いただいた方も大切にしなければならない。有償サービスに関して情報提供してもらおうぐらいのスタンスで説明してもらえれば問題無いのではないか。その際、2回目には他のテーマである無償ボランティアについて説明していくことが必要。ただ、参加者の方が何をやりたいのか、気持ちを聞くことが必要。

委員

支え合いの仕組みづくりや核づくりの勉強会等目的も踏まえて名称を考えてほしい。また、勉強会の募集に関して毎回電話で募集するのか。電話だと苦手な方もいるため、別途、支え合うきよせ委員会通信など設けて周知していくことが大切ではないかと思う。また今回の勉強会には不参加だが、フォーラムに参加頂いた方を今後の活動につなげていくことが何よりも大切。

委員長

まずは、開催する方向で進める。名称に関しては別途検討とし、内容に関しても次回以降検討が必要かと思われる。

ウ アンケート調査について

アンケート調査について実施したい旨の提案を行う。内容に関して生活支援コーディネーターの鍵和田氏より提案いただく。来年度市が地域福祉計画の策定で、様々な方にアンケート調査を行うので情報が入るが、それとは別に今回のアンケート調査で、地域の団体に参加している参加者に対しアンケート調査を行いたい。どのような活動に興味あるか、不安や不便を感じていること、協議体の役割等の周知を図りたいと考えている。委員の方に依頼したい内容は項目の検討と委員の所属する団体へのアンケート調査依頼への説明。今回の協議ではアンケート調査を行うことに対し、ご了解いただきたい。また、小委員会を開催しアンケート項目に関しても検討していきたい。

委員長

実施することにご了解いただけるか協議したい。

委員長

特に反対意見が無いので実施する方向で進めていく。

事務局

11月ぐらいから健康分野・障害分野・高齢分野・地域福祉の分野でアンケート調査を行う予定。今回のアンケート調査と重なる部分があるのでアンケート回答者に負担が無いように調整を行う。

委員長

内容に関しては市と協議をして進めていく方向で進める。また、時期は年度内に行うことで了承いただきたい。

エ 協議体の役割について

第一層の協議体・役割について事務局より再度説明をおこなう。また、地域の情報を収集及び人材を獲得するには第二層の協議体が必要不可欠な状況であり、現時点で清瀬の第二層に関して情報を集約化したので企画課長より説明頂く。

企画課長

清瀬市ではコミュニティの活性化を目指して様々な活動をしているが、自治会の組織率が37%と低く、課題として挙がっている。自治会への支援を継続して行っているが、清瀬市では1つの小学校区を1つの単位としてとらえ、様々な問題を一緒に共有し、自分達で出来ることを探し、取り組みながら、顔の見える関係づくりをめざす、コミュニティはぐくみ円卓会議も進めている。平成17年から第六小学校区をモデルに開始をした。立ち上げ方法としては小学校区にいる自治会長、民生委員など地域に活動されている方に案内の通知を行う。集まって頂いた方の議論の中から課題を見つけて課題解決を目指す。清瀬では9校区中、7校区で開始している。長期総合計画にも重要な施策として円卓会議を位置づけ推進している。実際にどのような内容に関して実施及び話し合いをしているかは企画課市民協働係長から資料4を基に説明させる。

市民協働係長

資料4について説明

地域包括ケア推進課長

市の取組状況を説明させていただく。中学校区域に生活支援コーディネーターを配置する場合、中学に設置することは難しいため地域包括支援センターに設置することを検討している。包括に設置することで他の地域包括や事業所などからの情報が集まると考えている。長期総合計画でもH29年度に検討と記載しており、現在そ

の方針で進めている。

委員長

時間も押しているので本日は情報提供のみとする。第二層の充実が今後、必要不可欠である。

オ その他

(7) 閉会 高齢福祉担当部長より

次回開催は11月24日(木)午後を予定とする。